

受 験 番 号	
学校 推薦型	
総合型	

2024年度学校推薦型・総合型選抜試験問題 小論文

【注意事項】

1. この問題冊子には答案用紙が挟み込まれています。試験開始の合図があるまで問題冊子を開いてはいけません。
2. 試験開始後、この問題冊子と答案用紙の受験番号欄（左上）に受験番号を記入しなさい。
3. 問題冊子には問題が1～2ページに記載されています。落丁、乱丁および印刷不鮮明な箇所があれば、手をあげて監督者に知らせなさい。
4. 答案には、必ず鉛筆（黒、「HB」「B」程度）またはシャープペンシル（黒、「HB」「B」程度）を使用しなさい。
5. 解答は答案用紙の指定された場所に記入しなさい。ただし、解答に関係のないことが書かれた答案は無効にすることがあります。
6. 問題冊子の余白と裏面は下書きに使用しても構いません。
7. 問題冊子および答案用紙はどのページも切り離してはいけません。
8. 問題冊子および答案用紙を持ち帰ってはいけません。

課題 次の文を読んで設問に答えなさい。

2005年頃から、様々なメディアで「不幸な若者」や「かわいそうな若者」がクローズアップされることが多くなった。増える一方の非正規雇用、低賃金で働くワーキングプア、どんどん厳しくなる就活戦線、現代版ホームレスとも言えるネットカフェ難民たち。

だがここに、①「不幸な若者」像を持っている人にとっては驚きであろうデータがある。僕もある本で知ったのだが、あまりにもみんなの食いつきがいいものだから、色んな人に言い触らした。

どうやら今の若者たちは自分たちのことを「幸せだ」と感じているらしいのだ。

複数の世論調査によれば、多くの若者たちは今の生活に満足している。しかも、若者が元気だったらしい1970年代と比べても、新人類が闊歩^{かっぽ}していたらしい1980年代と比べても、バブルがはじけても世間はまだまだお祭り気分だった1990年代と比べても、その満足度は高いのである。

(中略)

ただし「そっかー、若者は幸せなのか、良かったねー」という話では終わらない。若者たちが本当に幸せなのかを疑ってしまうようなデータもあるからだ。

生活満足度の件で参照した「国民生活に関する世論調査」では、「日頃の生活の中で、悩みや不安を感じているか」ということも聞いている。2010年の調査によると、20代の63.1%が悩みや不安を感じているというのだ。

同じ設問が確認できる1980年代以降の不安度の推移を見てみると、「不安がある」と答える20代は、1980年代後半には4割を切るものの、バブルが終わった1990年代前半から上昇し始めて、2008年には67.3%に達する。一方の「不安がない」20代は、バブル崩壊以降ずっと減少傾向にある。

半数以上の若者が、自分のことを幸福だと感じながら、同時に「不安だ」とも思っているのだ。これはいったい、どういうことなのだろうか。

また「大きな」ことを聞いた時も、若者の「不安」は明らかになる。日本青少年研究所が2000年に実施した国際比較調査によれば、「21世紀は人類にとって希望に満ちた社会になるだろう」という考えに対して、日本の若者の62.1%が「そう思わない」と答えている。他国に比べて、異常に絶望的な数値だ。

また、「自国の社会に満足していますか」という風に「大きな」ことを聞くと、その満足度は、生活満足度という「小さな」ことに比べてずっと悪い数値を示す。

(中略)

元京都大学教授の大澤真幸は、調査回答者の気持ちを以下のように推察する。人はどんな時に「今は不幸だ」「今は生活に満足していない」と答えることができるのだろうか。大

澤によれば、それは、「今は不幸だけど、将来はより幸せになれるだろう」と考えることができる時だという。

将来の可能性が残されている人や、これからの人生に「希望」がある人にとって、「今は不幸」だと言っても自分を全否定したことにはならないからだ。

逆に言えば、もはや自分がこれ以上は幸せになると思えない時、人は「今の生活が幸せだ」と答えるしかない。つまり、人はもはや将来に希望を描けない時に「今は幸せだ」「今の生活が満足だ」と回答するというのだ。

(中略)

大澤の説を裏付けるように、20代の生活満足度が上昇するのは一般的に「不況」と言われるような、「暗い時代」が多い。たとえば、生活満足度の1980年代のピークはバブル前の1985年。1990年代のピークはバブルも終わり、オウム真理教事件と阪神・淡路大震災が起こった翌年の1996年。2000年代のピークは格差社会論が盛り上がった2006年だ。

㊦「今日よりも明日がよくなる」と思う時、人は「今が幸せ」と答えるのである。これで高度成長期やバブル期に、若者の生活満足度が低かった理由が説明できる。彼らは、「今日よりも明日がよくなる」と信じることができた。自分の生活もどんどんよくなっていくという希望があった。だからこそ、「今は不幸」だけど、いつか幸せになるという「希望」を持つことができた。

(中略)

しかし、もはや今の若者は素朴に「今日よりも明日がよくなる」とは信じることができない。自分たちの目の前に広がるのは、ただの「終わりなき日常」だ。だからこそ、「今は幸せだ」と言うことができる。つまり、人は将来に「希望」をなくした時、「幸せ」になることができるのだ。

「絶望の国の幸福な若者たち 2015 古市憲寿」より一部改変して引用

設問 1. 下線①について、「不幸な若者」像を持っている人とはどのような人か。40字以内で答えなさい。

設問 2. 下線②について、人がこのように答えるのはなぜか。本文中からその理由を探し、140字以内で答えなさい。

設問 3. 本文の内容から、高齢者は、自分の幸福度や生活満足度についてどのように答えると予想されるか。50字以内で答えなさい。

設問 4. あなたが政治家なら、若者が幸福だと感じるようにするためにはどうするか。400字以内で述べなさい。

